

戦争と私

岡崎 美知子(おかざき みちこ)84才

昭和十二年に生まれた私は、戦争中の昭和十九年に小学一年生になり、当時住んでいた京都の下鴨小学校に、四年生の兄と元気に通学していました。授業中に空襲警報のサイレンが鳴ると、教室の床の下に作られた防空壕に入ることがよくありました。

そんな生活の中、当時三十七才の父が出征して、しばらくして二度と家族のところに帰らず、ニューギニアで戦死しました。私が父と過した生活は、七年間で終わってしまいました。

父が戦死してから、生活の場を丹後にある父の実家に移しました。戦争の影響があまりなかったため、二人の叔母といとこ達が疎開してきたため、大変にぎやかな生活になりました。終戦になり叔母たちが自宅に帰ったので、祖母と母と5人の子ども達の生活になり、私は高校まで丹後で過ごしました。近くの山や川に友達と遊びに行ったり、庭にできる柿やいちじくをよく食べた事が、とてもなつかしいです。

二人の叔母も亡くなり、若くて未亡人になり、苦勞して五人の子どもを育てた母も、二十四年前に八十二才で父の元に旅立ちました。

母の年令を越した私は、子ども二人と孫六人、ひ孫一人に恵まれ、夫と老後を過ごしています。

戦争のない平和な世の中であることを、いつも思っています。